

常不輕菩薩の生き方に切り替えよう

【1月2度の御金言】いまだ日蓮ほど法華經のかたうどして、国土に強敵多くまうけたる者なきなり。まづ眼前の事をもって日蓮は閻浮第一の者とするべし。

『撰時抄』(283頁)

法華講信条

- 1, 謗法嚴戒の信仰を貫こう。(信心)
- 1, 行学絶へなば仏法はあるべからず。(行学)
- 1, ただ一言でも妙法を伝える勇氣を持とう。(破邪顯正)
- 1, どんなことがあっても憶持不忘の信心を貫こう。
- 1, 現世利益絶対否定の信心をしよう。(示教利喜)
- 1, 成仏大願、菩提心堅固の精進をしよう。
- 1, 御題目を唱える為にこそ生まれてきた自覚を持とう。
- 1, 噂に流されない、人に媚びへつらわない自立した信心をしよう。
- 1, 妙法聞法の縁を大切に求道の信心をしよう。

1991年2月13日掲揚

☆ただ一言でも妙法を伝える勇氣を持とう。(破邪顯正)

創価学会の時代は、御授戒を受けたばかりで、日蓮大聖人の法が、どの様なものなのかも知らないのに、折伏する事が一番功德が有るから、何しろ折伏しなさいという幹部の指導に従って、「四箇の格言」を振り回し、入信すれば功德が有る、入信しなければ罰が当たるの現世利益こそが信心であると、折伏する方も、される方も思い込み。戸田城聖が指導に多用した。「饅頭を文字や言葉でどれ程説明しても分からないでしょ、一口食べれば誰でも、その味が分かる。それと同じで、信心も、頭で考えていても分からない、やってみなければ分からない。やってみましょう。やって駄目だったらやめれば良いじゃないですか。善は急げ、御寺へ行きましょう。」こういう事を折伏だと思い込みやっていました。この体質は、平和道徳団体を名乗っている今も同じだと思えます。何故なら、過去の体質を反省謝罪した事が無いからであります。

日蓮大聖人の法は、当然こんなものでは無いのであります。

どんな生命にも仏の生命が具わっていて、成仏する資格が有る。その為には、法華經の行者として生き、南無妙法蓮華經の法を信じ修行する道を歩む事です。どんなに生老病死、理不尽、不条理、天災、災害、想像を超えた試練、苦しい事や悲しい事があっても、変毒為薬し、成仏する事の出来る唯一の法を貫いて生きて行きましょう。

日蓮は他宗の悪口批判を言っているのではなく、成仏出来ない法を成仏出来ると嘘を説いている宗教に騙されたりしないで捨てなさい。心が引かれてはいけません。成仏出来る法にこそ生命をかけなさいと訴えているのであります。

この事を、親、兄弟、親戚、子や孫、友人知人に一言でも伝えて行く事が、本当の折伏なのであります。にせの折伏は、日蓮大聖人の法を説いていませんから折伏などでは無いのであります。

クリスマスだからと、クリスマスケーキ、クリスマスプレゼント、クリスマスツリー、

クリスマス会、クリスマス飾り等々で浮かれている人、初詣で皆が行くからと神社に御参りする人、玄関や車に注連縄を飾って祝っていると思っ込んでいる人に対して、クリスマスの意味、注連縄の意味、神社の御神体がなんなのか？と日蓮大聖人の法との違いを話し、楽しいから、皆がやっているからでやることは、止めた方がよいよとつぶやくだけの一言でも、姓名判断、四柱推命、血液型占い、占星術、開運改名等々に心を奪われ、信心は信心、これはこれで謗法では無いと思っ込んでいる人に対しても、それは謗法だから止めた方がよいよと、つぶやくだけの一言でも、見て見ぬふりをして見過ごせば容認協力したと同じになってしまいます。見た以上聞いた以上は、日蓮大聖人の法から外れ成仏出来ない事を伝えなければいけないのであります。その人が入信しなくても、その人を妙法に触れさせる事が大切なのであります。入信とは、その人が法華経の行者として生きる事ですから、その人が勇気を出して決断し、それまでの生き方を変えなければいけません。脅したり、騙したりして、御授戒を受け、御本尊を持たせても、法華経の行者にはなれません。私達が日蓮大聖人の法を伝えるきっかけは身の回りに数え切れないほどあります。後は法華経の行者として自分が一言でも妙法の言葉を発する勇気を出すだけであります。